

## 国 語

### 〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 国語

(60分) 100点 (解答番号

1

46)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

自分は、大試合の翌日の火渡さんを想像して、涙が出そうになることがある。

荒れた試合や、流血騒ぎ、タイトルのかかったビッグマッチ。次の日は必ずといっていいほど、火渡さんは一人になりたがった。その時の火渡さんは、虚ろな目をして膝を抱き、頼りない風情で壁に寄りかかっていた。あれはきつと、火渡さんの中でも燃えている、悪魔のようなパワーが全部吐き出されて、やっと本物の火渡さんが顔を出した瞬間だったのだろう。

居合わせた自分は、火渡さんの真の姿を知っているのは自分だけなのだと思ったり、闘い続ける火渡さんの業を見せ付けられた気がして、妙に悲しくなったりしたものだ。今でも火渡さんは同じ表情をして、一人ぼつんと部屋にいることだろう。が、自分はもう、火渡さんのその姿を見ることはできない。

自分が女子プロレスから完全に足を(3)、早くも五年が過ぎた。

田舎に帰って、スーパールのレジを半年勤め、それから地元で乳製品会社に再就職した。会社では、元女子プロレスラーだったことで有名になったし、時々、試合のビデオを持っているという工員さんからサインを求められたりもして、不思議な気分になる。自分は本当にPWPに所属したプロレスラーだったのだろうか、と。現在の生活は、普通のOLと何ら変わりはない。去年、工場の野球チームにいる三つ年下の恋人が出来た。その人には、プロレスラー時代の話は全部した。いつか、結婚もするかもしれない。

合宿所の仲間や、アロウさん一派。ミッキーさん、切替リングアナ。社長や営業の栗本さん、平田さん。後楽園ホール。地方興行。リングの設営。一勝しかできない自分。どの思い出も皆、色褪せ、遠くなった。でも、火渡さんのことだけは不思議とはつ

きりし、そこだけ鮮やかだ。

あの日、自分は火渡さんとの対戦を終えた後、社長に挨拶してPWPを辞めることを告げた。火渡さんには、ヒカえ室<sup>(5)</sup>に行つて頭を下げただけだった。火渡さんは、試合の時に囁いた言葉をもう一度言った。

「お前は間違っている」

そして背中を向け、火渡さんは二度と振り向かなかつた。これが、三年間付き人を務めた自分と、火渡さんとの別れだった。火渡さんは途中で挫折した自分を、決して許そうとはしなかつたのだ。

火渡さんはPWPに残り、ずっとプロレスラーを続けている。アロウさんも、パンサーさんも引退して結婚し、子供がいると聞いた。だから、火渡さんがPWPの<sup>(6)</sup>カンバンレスラーだ。団体内最強にして、最高の地位に就いた現役女子。いや、団体内ではない。女子プロレス界全体で、だ。オール女子も、コロシアムYも女子プロレス団体の主だったところは潰れたのだから。弱小だのお荷物だのと蔑まれたPWPだけが生き残つたのも、火渡抄子という類似希なレスラーがいたおかげだろう。

レフェリーのミッキーさんは、ポプリの仕事を本業にしている。ポプリの押し花が付いたクリスマスカードや暑中見舞いが<sup>(7)</sup>まめに来る。難波さん、三好美香子さん、キメラさん、白蛇さん、北本さんは変わらず現役だ。アマデウスさゆりさんは、岐阜で「さゆり」というスナックを開いた。春木は去年、ヌードになった。写真集は、自分の住んでいる街では手に入らなかつたから、どれほどの魅力を振りまいたかはわからず仕舞いだ。権藤はPWPのホームページ担当になって張り切っているそうさ。

そろそろ、本当のことを書かねばならない。

さつき、自分は火渡さんとは最後の試合で別れたきりだと書いたが、それは大嘘だ。二年前の冬、自分は火渡さんにも、PW Pのみんなにも会つたのだ。神林の葬式で。

神林は試合中の事故で亡くなつた。与謝野ミチルが相手だつた。与謝野が得意にしているジャーマンの投げっぱなしをかけた途端、神林はリング上で大の字になって動かなくなつたという。頸椎骨折<sup>けいついこっせつ</sup>だつた。火渡さんと同じストロングスタイルを好む神林は、火渡さんに次ぐナンバーツーになりそうな与謝野に、

(8)

焦っていた。だから、その試合は物凄く入れ込んでいたら

しい。その話を聞いた時、神林はあの時の自分と同じだったんだ、と思った。

「近田ちゃん、どうしよう」

与謝野本人が泣きながら電話をしてきた。与謝野とは、月に一回くらいは電話で長話をする間柄だった。

「あたし、神林を死なせてしまった」

与謝野の声は暗く、地の底から聞こえてくるかのように絶望的に響いた。とうとう起きた。一番、心配していたことが、同期同士の試合の中で起きたのだ。たった三人の同期の一人だった自分は、受話器を持ったまま呆然<sup>ぼうぜん</sup>として、言葉もなかった。

葬式に与謝野は来なかった。警察での事情<sup>(9)</sup>チヨウシユも終わって、与謝野は神林に最後のお別れをしたい、お母さんに謝りたい、とコンガン<sup>(10)</sup>したのでさうだが、神林の遺族の手前があるからと社長が遠慮するように申し渡したのでという。

北風の強い、ひどく寒い日だった。自分は斎場の床コンクリートからじわじわと足裏を伝い、胸まで凍らせようと上ってくる冷気に耐えながら、火渡さんから視線を外すことができなかった。火渡さんは子供のように泣きじゃくっていた。堪えられなくなった自分は、廊下に出た。

「近田」

振り向くと、後ろに火渡さんが立っていた。泣き腫らした目をして、<sup>あたま</sup>臉が落ち<sup>くぼ</sup>窪んでいる。

「お久しぶりです、火渡さん」

「あたしが間違っていた」火渡さんは、拳で涙を拭った。「謝る。間違っていた」

「何のことですか」

「最後の試合で、『お前は間違っている』と言ったことだよ。間違っていない。正しい。絶対正しい。お前を無理矢理、試合に出していたら同じことが起きていたかもしれない。間違っていたのは、あたしの方だった」

自分は黙って火渡さんの頬を伝う涙を見ていた。この人は自信をなくしている。これまで築き上げたすべてを、神林が死んだ瞬間に失ったのだ。

「でも、火渡さん。神林がそういう生き方を選んだんだと思います」

「違う」火渡さんは激しくかぶりを振った。<sup>(11)</sup>「生き方じゃない。死に方じゃないか。あたしはもう駄目だ」

こんなに弱った火渡さんを見たのは初めてだった。一人で膝を抱える火渡さんの姿が目には浮かび、自分は思わず駆け寄っていた。

「自分が付き人やります。会社辞めますから、またやらせてください」

火渡さんは自分の肩を両手で押し戻した。驚くほど強い力だった。

「いい、来るな」

「どうしてですか」

「こういう日のために、皆でやってきたのかもしれないから」

自分は火渡さんに拒絶されて、立ち竦んでいた。自分は「皆」の一員ではなくなって久しかった。それも自分から離れた。屈辱も恥辱も、苦しみも悲しみも、皆と共有することはすでにできない。自分はこの時初めて、女子プロレスラーを辞める、というこの意味がわかったのだった。大試合を経験したこともない自分が、翌日の火渡さんの気持ちを手に取るように理解できたこと。それは、自分が火渡さんと同じ世界に生きていたからこそ、だった。今、自分はいはいけない場所にいるのかもしれない。自分は斎場を出た。<sup>(12)</sup>この日が、自分の本当の引退だったのだろう。

火渡さんはその後も活躍している。体に厚みが増して、技に一層凄み<sup>(13)</sup>が加わった。この間は男子レスラーと対戦してゴカク<sup>(14)</sup>だと聞く。与謝野は事故後、半年経って復帰した。与謝野は音楽もかけずに神林のイエイを抱いて入場して来る。リングが見えるところにイエイをそつと置き、試合をするのだ。最近の与謝野には、オーラがある。もしかしたら、与謝野は火渡さんのようなレスラーになるかもしれない。自分は与謝野をテレビで見ながら、そんなことを考えていた。そして、喜んでいる自分に気が付いたのだった。



問2 傍線番号(2)「自分はもう、火渡さんのその姿を見ることはできない」とあるが、この時の近田の心情として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

4

- ① 悪魔のようなパワーで戦う裏で、虚ろな目をした頼りない姿の火渡を自分だけが知っていることに優越感を抱いている
- ② エネルギーを使い果たしてもとの自分に戻った火渡の姿に、もう自分は関わることができなくて寂しく思っている
- ③ 神林のリング上での死後、悪魔のようなパワーで暴れまわる火渡の迫力が失われたことを残念に思っている
- ④ 火渡のことを心配していたので、試合後の火渡の疲れ切った姿を見ることがなくなって内心ほっとしている
- ⑤ 自分の力をすべて使い果たすまで闘い続けるプロレスラーとしての火渡の業を、痛々しく思っている

問3 空欄番号

(3)

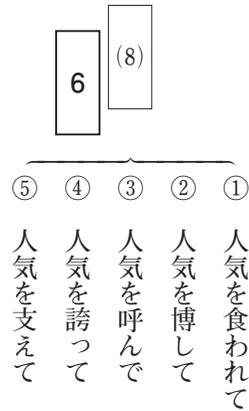
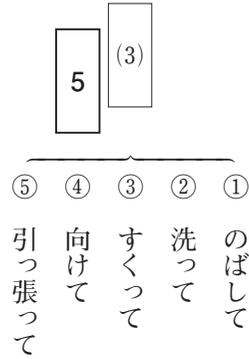
(8)

に入る言葉として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び

マークしなさい。

5

6



問4

傍線番号(4)「火渡さんのことだけは不思議とはつきりし、そこだけ鮮やかだ」とあるが、そのように感じた理由として最も

適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

7

- ① 三年間付き人を務めた火渡との繋がりは誰よりも強く、どれだけ時間が経つても途切れることなく続いているから
- ② 友人の事故死のあと、火渡のオーラはさらに強くなり、近田は以前にも増して惹きつけられるようになったから
- ③ 生死を賭けたプロレスラー仲間であることの意味の重さを、ビッグマッチの後の火渡の姿に思い知らされたから
- ④ プロレスラーを辞めてしばらく経ったいまでも、近田にとって憧れの女子プロレスラーであることは変わらないから
- ⑤ 近田にとってプロレスラー時代に経験した人生の危機のなかで、火渡のアドバイスだけが心に残っているから

問5 傍線番号(5)・(6)・(9)・(10)・(13)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。  
8

13

(5) ヒカエ

8

- ① コウセイ物質の投与  
 ② 勝敗にコウデイする  
 ③ ジコウの挨拶を添える  
 ④ 扶養コウジヨを受ける  
 ⑤ 駅のコウナイで迷う

(9) チョウウシユ

10

- ① クウチョウ設備を整える  
 ② チョウウバツを与える  
 ③ 演説をセイチョウウする  
 ④ チョウウボウが開ける  
 ⑤ 時代のチョウウリユウをよむ

(13) ゴカク

12

- ① 道路をカクチョウする  
 ② 村のエンカクを調べる  
 ③ 彼の強さはベツカクだ  
 ④ 気温差をヒカクする  
 ⑤ 次第にトウカクを現す

(6) カンバン

9

- ① カンタン相照らす  
 ② カンヨウな態度をとる  
 ③ 国境をカンシする  
 ④ 企をらみをカンパする  
 ⑤ 利益をカンゲンする

(10) コンガン

11

- ① コンダン会に参加する  
 ② 土地をカイコンする  
 ③ とつさの事態にコンワクする  
 ④ 夕食のコンダテ  
 ⑤ コンキ強く粘る

(14) イエイ

13

- ① ゲンエイにおびえる  
 ② タイトルをボウエイする  
 ③ 国民的エイユウとなる  
 ④ 封切りのエイガをみ観る  
 ⑤ 祖母がエイミンする

問6 傍線番号⑫「この日が、自分の本当の引退だったのだろう」とあるが、そのように感じた理由として最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 斎場で火渡と話をしてわだかまりがなくなり、はじめをつけたから
- ② 同期の一人が亡くなり、女子プロレスの世界への未練がなくなったから
- ③ 火渡の断固とした拒絶によってプロレスに関われなくなってしまったから
- ④ 自分がかつてプロレスラーであったことを火渡に否定されたように感じたから
- ⑤ 引退しても心のどこかではプロレスの世界の仲間であると思っていたから

問7 本文中からうかがえる「火渡さん」の人物像として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 試合後の虚脱感だけでなく仲間の死をも臆することなく乗り越えていける、プロレスラーとしての職業意識が高い人物
- ② 団体でもっとも知名度の高い選手として知られているが、誰とでも気軽に接することができる人当たりの良い人物
- ③ 団体に絶大な人気を維持し最強の地位を確立しているが、実は精神的なもろさや不安定さに打ち勝とうとしてきた人物
- ④ 他人を寄せ付けない雰囲気を持っているが、一度気を許した相手には自分のすべてをさらけだしてしまうような人物
- ⑤ 団体の中ではだれよりも強いが、その強さのために周囲から孤立してしまい、浮いた存在となってしまう人物

問8 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 昔の同僚たちが華々しく転身するなか、近田はこのままOLを続けるのか決めかねていた
- ② 斎場での出来事をきっかけに、近田はプロレスラーをやめた自分を仕切り直すことができた
- ③ 女子プロレスの世界から居場所を奪われた近田は、それでもプロレスへの興味を失わなかった
- ④ 近田はリングで戦う意欲を喪失し、女子プロレスの仲間たちにわだかまりを感じるようになった
- ⑤ 近田は何度も危険を乗り越えて現役復帰をめざしたが、その熱意を火渡には信じてもらえなかった

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

各人は、その顔が皆ちがうように、銘々全く同じ経験内容をもつ人がないのである。(1)、その思い思いの表現がよくお互いの間に通じることが出来るのは、一体何によるか。

それは、同じ国民、同じ民族の間には、共通な言語慣習が養われていて、それが人々の間をバイカイするからである。お互いの表出は、この習慣に基づいてのみ行われる。この習慣が共通だから、それでいうことがよく互いに通じるのである。この共通な言語慣習の事実が、また日常簡単にただ言語とだけいわれて通っている。例えば、日本民族の言語である日本語、中国人の言語である中国語などという時の言語がそれである。

この時の言語の意味は、すなわち、(3)それぞれの民族のそれぞれの言語慣習の総和を指していうことである。

なお英語といい、ドイツ語といい、フランス語といい、朝鮮語といい、アイヌ語といい、皆同様に、それぞれの民族の言語慣習の事実の全体を意味する。

この意味における言語は、もはや活動でも運動でもなく、(4)社会的なモツケイ、民族的制約であり、その組織体である。すなわち、同じく言語といっても、この意味の言語は、(5)つまびらかには言語体系である。永年の間に培われた、それぞれの民族の文化財の一つであって、精神的伝承の事実である。

およそ、国々の辞書や文典が書いている問題はこの言語体系の事実である。すなわち、辞書は、言語体系中の切れ切れの事実を記述し、文典は、言語体系中の規則的な方面を記述している。では、この言語体系の本質は、元来どのようなものであるだろうか。

言語表出の方は、耳に触れ目にはいる事実であるのに反して、言語体系は、心の中の事実であって、脳裏の存在であるから、目にも止まらず、耳にもひびかない、観念的事実である。

どうしてそういうものができるか、といえは、生まれ落ちてから我々は、我々をめぐる周囲の言語活動を経験して、一語一語

を習得し貯蓄し来った結果にほかならないのである。

我々の周囲がミミといったからミミと覚え、ハナといったからハナと覚え、一語一語、こうして、頭へ貯金をして来た。

もつとも、耳をハナと皆がいつていたらハナと覚え、ハナを皆がパナといつたらパナと覚えたであろう。可否善悪を問わず、周囲がそういう、それ故に我々もそういう。ひとつひとつがただ伝承的な約束である。こうして前代から伝承して脳裏に成立する。この社会的触約がすなわち言語体系の事実である。

もつとも、目にもみえないものを、どうしてそういうものが脳裏にあると、わかるのであるかといえば、それを活用して物という、その表現を通して、そういうものがお互いの間に習慣的に成立していることを知るのである。

すなわち言語表出が行われて言語体系が成るのであるが、また言語体系があつて、それを運用する所の言語表出が行われるのであるから、この二つは同一言語現象の表と裏である。そのうち、

(6)

に触れる言語表出の方は表であつて、心の中の事

実である言語体系の方は、その裏であるが、この裏の事実の方が言語の本体であつて、これを運用する言語表出の方はそのあらわれであり、その用である。故に用としての言語、体としての言語の差にすぎない。換言すれば(7)同じ言語の中に、言語ということ(活動)と、言語というもの(材料)との各半面に他ならない。

言語表出の方の形式は、時として音声であり、時として文字であり、また時として信号旗、時としてトンツ、また時として判じ絵でさえあり得る。故にごたごたしたものであるが、これに反して、本体である言語体系の方の形式はすつきりしたものである。

それは永年経験した音声経験から各自の頭に出来上がったところの再生表象に他ならない。すなわち、もはや音声そのものではなくして、音声観念である。これが、言語体系の形式で、これに連合する事物観念が、その内容すなわち意義を成す。

術語で、かような音声観念を我々は特に音韻と呼び、その内容の意義に対立させる。

すなわち言語というものは『音韻と意義とから成る符号の体系である。』

以下言語とだけいう場合は、こういう意味の言語、すなわち、言語体系をいうのである。

言語というものの濫觴は、人類相互の心的交渉上、必然の要求から発したものであろうから、言語現象の全体の中には自然の発生のももある。

しかしながら、人類言語が、もしも、(9)、自然的発生のものに止まって、それ以上に出なかつたら、どんなことになつていたはずであらうか。

そしたら、我々の言語も、一々習得するまでもなくひとりでに覚えられ、物の言い方も、一人前になる内に誰も出来、自然に素晴らしい出す程度の範囲に止まるから、それを聞けば聞く方にその意味がすぐにわかつて、恐らく方言の差も時代語の差もなかつた。いや、国語の差さえもなくして、同一人類は地上到る所同じ鳴き声をしている牛・馬・犬・猫のように、大抵同じような声を出していたはず、そしてそれは変遷することも出来ず、いつまでも変わることがないので、その有様は、いつの代の鳥も大抵カアカア、いつの代の雀も大抵チュチュチュいうようなものだったかも知れない。

そしたら言葉はただせいぜい術であつて（学でなく）、従つて言語学も文法学もなしに済んだのであろう。

しかしながら、自然にわかる音声などは、そうたんとあるわけがないし、言いたい心の内容の方には(10) 限りがないか

ら、人間は、たとい、初めは自然にわかる程度だけで物をいつていたにしても、じきに、自然にわかる声だけに頼つておれなくなつたはずである。あらん限りなことをして、様々な心の内容を言い分けようとするから偶然のことから理解されたというような頼りない仮初めの音でも、理解のためには余すところなく利用せねばならなかつたにちがいない。殊に、たとい偶然でも一度理解の成立した音声は、次回にそれを利用すると前回の記憶がこれを助けて、ごくヨウイに理解がつくのである。そういう長所のあるのを捨てておけない。だから理解が自然に、必然的に生じるものも、偶然生じたものも、そんなことを問わずに、どしどし役に立つものを皆役に立てて遺憾なく利用したはずである。この一度用いられたものを、次回に二度これを用いるということ、ここにそもそも『伝承』の起源がある。故に人類言語は、起源は自然に発しても、発達段階に入るにつれ、だんだん自然の軌を逸脱してしまつたはずなのである。そして一步一步伝承に俟つところのこの人間的な恣意的な傾向を深くして進んで、とうとう一にも伝承、二にも伝承、全く今日の伝承的言語になつてしまつたのである。だから言語というものは自然に始まつて自然を出

で、論理に始まって論理を超え、超自然的・超論理的な存在になってしまったわけである。<sup>(14)</sup>

この意味から、実は論理的文法というのはねらいがわるい。また音義説というものがあって、語源を自然的に尋ねようとするのもねらいがいけない。

言語が自然性のものであったら、勝手に変化することが出来なかつたはずであるが、禽獸の鳴き声とちがつて我々のは伝承性のものである。この、自然的ではなくして、伝承的であることが、人類言語の特性である。

自然的なものから一転して伝承的なものになった結果は、どういうことを生じたか。禽獸の自然声から、人類の伝承的な言語となるということは、必然の軌から脱して、ひたすら伝承にまつ、伝承次第ということになるから、伝承次第、どうにでもなれるという自由な世界へ解放されることになるのである。言い換えると、変化を許されなかつたものから、どしどし変化し得る性質を<sup>(15)</sup>フヨされてしまうということなのである。

すなわち、自然声が人類言語となるということは、岸に繋がれていた舟が、流れの面へ向けて纜を解かれるということにひとしい。

<sup>(16)</sup>、人類言語というものは、生じるとすぐに限らない流転の浪の上へ宿命的にさらされたということである。変化また変化、その変化からまたサラに新変化へ、かくして永遠にやまない不断の変化の道程に就いたものが人類言語の運命である。

これのみはいかなる力も塞ぎ得ない。

どこの国の国語でも、上代語・古代語・中世語・近代語・現代語と名がついて、それを区別するゆえんである。

断えざる流動の姿こそ言語というものの天真の相である。ちょうど、流れるとも見えない大川の面を見るようなのが言語の永遠の姿である。<sup>(18)</sup>

(金田一京助『日本語の変遷』による)

(注1) 濫觴——物事の起源。起こり

(注2) 俟つ——頼りとする。期待する

(注3) 纜——船をつなぎとめる綱

(注4) 天真——天然自然のまま、偽りや飾り気のないさま

問1 空欄番号

①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

(1) · (6) · (9) · (10) · (16)

に入る語として、最も適切なものを、次の各群の

21 (16)

⑤ ④ ③ ② ①

換言すれば 俯瞰すれば 前提として 要約として 付言すれば

19 (9)

⑤ ④ ③ ② ①

付和雷同 徹頭徹尾 右往左往 一气呵成 不即不離

17 (1)

⑤ ④ ③ ② ①

したがって それなのに つまり もしくは それから

20 (10)

⑤ ④ ③ ② ①

千差万別 支離滅裂 天地神明 一衣帶水 適材適所

18 (6)

⑤ ④ ③ ② ①

思考 経験 知識 耳目 感性

問2 傍線番号(2)・(4)・(12)・(15)・(17)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

22

26

(2)

バイカイ

- ① バイシン員を務める
- ② 損害をバイショウする
- ③ レンバイ価格で処分する
- ④ 以前にバイする支援を受ける
- ⑤ ショクバイの働きをする物質

(4)

モツケイ

- ① ノートのケイセン
- ② 人権意識をケイハツする
- ③ 病気をケイキに職を辞す
- ④ 寺社へサンケイする
- ⑤ 彼はウチベンケイだ

(12)

ヨウイ

- ① 先例にイキヨする
- ② カンイ保険に加入する
- ③ 退職をイリユウする
- ④ 不法コウイをゆるさない
- ⑤ 軍事的なキョウイとなる

(15)

フヨ

- ① 鉄道をフセツする
- ② 地方税をフカする
- ③ 費用をフタンする
- ④ 東京へフニンする
- ⑤ セイフの公式見解

(17)

サラに

26

- ① コウチョウ会を開く
- ② コウロウ者を表彰する
- ③ 閣僚をコウテツする
- ④ コウゲン令色すくなし仁
- ⑤ 文学をセンコウする

問3 傍線番号(3)「それぞれの民族のそれぞれの言語慣習の総和」とあるが、これはどういうものか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

27

- ① それぞれの民族で話される言語のうち、一部の人々が理解できる表現を集めたもの
- ② 同じ民族や同じ国に住むものどうしの間で通用する言語慣習の集合体
- ③ 日本語、中国語、ドイツ語、フランス語、アイヌ語など各地の言語の資料体系
- ④ 宗教や民族に関わらず、その地域に住む集団のなかで通じる言葉表現を集めたもの
- ⑤ それぞれの民族で、他と混同しないように大切に継承されてきた言語体系

問4 傍線番号(5)・(11)・(13)の本文における意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

28

30

(5) つまびらかには

28

- ① より細かく言う
- ② 声を大にして言う
- ③ 大雑把に言う
- ④ 幅広く言う
- ⑤ はつきり言う

(11) 仮初め

29

- ① 不安定で落ち着かないこと
- ② その時かぎりであること
- ③ 最初のとりつきとなること
- ④ あいまいではつきりしないこと
- ⑤ 想像上のできごとのこと

(13) 恣意的

30

- ① 自分の好みやそのときの思いつきで行動するさま
- ② 当然のなりゆきにまかせようとするさま
- ③ 物事の進め方に無駄がなく能率的であるさま
- ④ 感情を交えず、規定どおりに物事を行うさま
- ⑤ いろいろな方面にひろく用いるさま

問5 傍線番号(7)「同じ言語の中に、言語ということ(活動)と、言語というもの(材料)との各半面に他ならない」とあるが、活動と材料を言い換えた組み合わせとして、あてはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 音声と意義
- ② 音声経験と音声観念
- ③ 再生表象と事物観念
- ④ 言語表出と言語体系
- ⑤ 用と体

問6 傍線番号(8)「言語現象の全体の中には自然的発生のものもある」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 人類が幼少期に話す言語は、言語学や文法学に則<sup>のぞ</sup>っていないので、意味をなさないことが多いということ
- ② 言語の発達段階の初期では、動物の鳴き声のように必然の要求から発して意思を伝え合っていたということ
- ③ 言語現象はすべて自然に発生したもので、言語学や文法学を基盤に言語として洗練されてきたということ
- ④ 言語というものは、交流する必要に迫られて発達したものだから、自然にわかるものも多いということ
- ⑤ 人間も、牛・馬・犬・猫と同じ生きものである以上、物の伝え方を自然と覚えるものだけということ

問7 傍線番号⑭「超自然的・超論理的な存在になってしまった」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ  
選びマークしなさい。

33

- ① 今日の言語は、自然的発生のときから基本は現在の形をしており、くり返し使われるなかで文法が整備され、言語として完成されたということ
- ② 今日の言語は、すべて偶然のことから利用者の中で理解が進み、さらに繰り返し利用されることによって現在の形を獲得したということ
- ③ 今日の言語は、始めから自然的発生したのではなく、言いたい心の内容を相手に正確に伝えられるようにつくられたということ
- ④ 今日の言語は、便利に使われているうちに自然的に発生したものの枠を超えて発達し、どのようにも変化しうる伝承的言語になっていったということ
- ⑤ 今日の言語は、心の内容を表すために表現の幅を広げていき、さらに獲得した内容を寸分たがわぬ状態で伝える術を得たということ

問8 傍線番号(18)「言語の永遠の姿」とあるが、著者は言語をどのように考えているか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 川の表面が動いていることがわからないように、言語は一見しただけではほとんど変わっていない
- ② 禽獣が発する自然声とはちがひ、人工的につくられ体系づけられることで長い間伝承される
- ③ 流れに向けて乗り出した舟が目的地を決めて自在に行き来できるように、望むままに姿を変えられる
- ④ 伝承性という特徴を利用して、古代語、中世語のように時代に合わせた言語をつくることができる
- ⑤ 時代ごとに使われる言葉が少しずつ変わっていくように、言語はとどまることなく絶えず変化し続ける

問9 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 言語は伝承されることですから形が変わってしまったが、言語体系の本質を捉えるには語源に遡って考えることが不可欠である
- ② 必ずしも言葉や文字でなくても、それぞれの民族で共通の認識を持てる形で表出される限り、それは言語であるといえる
- ③ 日常で触れる機会の多い言語表出は絶えず変化していくのに対して、心のうちにある言語体系に変化が生じるようなことはない
- ④ 鳥や雀などの動物たちが自然声から抜け出すことができなかつたのは、お互いに意思疎通する必要に迫られなかつたからである
- ⑤ 時代語の差や方言の差の存在も言語のもつ多様性の一部であると考えられ、これらの違いと言語の本質の間に重要な関わりがない

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

今は昔、信濃国(注1)に筑摩の湯といふ所に、万(まろ)の人の浴(あ)みける薬湯あり。そのわたりなる人の夢に見るやう、「明日の午(むま)の時に、観音湯浴み給ふべし」といふ。<sup>(1)</sup>「いかやうにてかおはしまさんずる」と問ふに、いらふるやう、「年三十ばかりの男の、鬚(ひげ)黒きが、綾(あや)笠(がさ)きて、ふし黒なる胡籙(やなくひ)、皮(かわ)巻きたる弓持ちて、紺(あを)の襖(あ)着(注4)たるが、夏毛(むかばき)の行(な)膝(ひざ)はきて、葦毛(あしげ)の馬(うま)に乗りてなん来べき。それを観音(2)と知り奉るべし」といふと見て、夢さめぬ。驚きて、夜明けて、人々に告げまはしければ、人々聞きつぎて、その湯に集まる事(こと)限(かぎ)なし。湯をかへ、めぐりを掃除し、しめを引き、花香(か)を奉りて、居集まりて待ち奉る。

やうやう午の時過ぎ、未(ひつ)になる程に、ただこの夢に見えつるに露違(3)はず見ゆる男の、顔より始め、着たる物、馬、何かにいたるまで、夢に見しに違はず。万の人にはかに立ちて額(ぬか)をつく。この男大(おとこ)に驚きて、心もえざりければ、万の人に問へども、ただ(4) 拝(か)みに拝みて、その事といふ人なし。僧のありけるが、手を摺(す)りて額(ぬか)にあてて、<sup>(4)</sup> 拝(か)み入りたるがもとへ寄りて、<sup>(5)</sup> 「こはいかなる事ぞ。おのれを見て、かやうに拝み給ふは」と、よこなまりたる声(こゑ)にて問ふ。この僧、人の夢に見えけるやうを語る時、この男いふやう、「おのれさいつころ狩をして、馬より落ちて、右の腕(うで)をうち折(こ)りたれば、それをゆでんとて、まうで来たるなり」といひて、と行きかう行きする程に、人々尻(しり)に立ちて、<sup>(6)</sup> 拝(か)みののしる。

男(おとこ)しわびて、<sup>(7)</sup> 我が身(み)はさは観音(くわんおん)にこそありけれ。<sup>(8)</sup> ここは法師になりなんと思ひて、弓、胡籙、太刀、刀切り捨てて、法師になりぬ。かくなるを見て、万の人泣きあはれがる。さて見知りたる人出(い)で来ていふやう、「あはれ、<sup>(9)</sup> かれは上野国(あづま)におはする、はとうぬしにこそいましけれ」といふを聞きて、これが名をば、馬頭観音とぞいひける。

(『宇治拾遺物語』による)

(注1) 信濃国——旧国名。今の長野県

(注2) 綾(あや)笠(がさ)——藺草(いんそう)を編んで作った笠

(注3) 胡籙(やなくひ)——矢を入れて背に負う武器

- (注4) 襖——狩襖の略。狩衣<sup>かりぎぬ</sup>。武官の礼服
- (注5) 行膝——馬に乗るときに用いる、袴<sup>はかま</sup>の前にあてるおおい
- (注6) よこなまりたる声——なまりのある声
- (注7) 上野国——旧国名。今の群馬県

問1 傍線番号①・⑦の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

(1) いかやうにてかおはしませんずる

36

- ① どのような様子でおいでになるのでしょうか
- ② どのような方法でおいでになるのでしょうか
- ③ どのような方法を使っても行きたいものです
- ④ どのような様子で行ったらよいのでしょうか
- ⑤ どのような方法で行ったらよいのでしょうか

(7) 我が身はさは観音にこそありけれ

37

- ① 我が身はあるいは観音なのだろうか
- ② 我が身はやはり観音だったのだ
- ③ 我が身はやはり観音の化身だったのだ
- ④ 我が身はそれでは観音ということなのだ
- ⑤ 我が身はそれでは観音に守られているのだ

36

37

問2 傍線番号(2)・(4)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

38

39

(2) 知り奉るべし

- ① ラ行下二段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋推量の助動詞
- ② ラ行四段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋適當の助動詞
- ③ ラ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞＋適當の助動詞
- ④ ラ行下二段活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞＋推量の助動詞
- ⑤ ラ行下二段活用動詞の連用形＋尊敬の動詞＋推量の助動詞

38

(4) 拌み入りたる

- ① マ行四段活用動詞の連用形＋形容動詞の連体形
- ② マ行四段活用動詞の連用形＋ラ行上二段活用動詞の連用形＋断定の助動詞
- ③ マ行四段活用動詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の連用形＋存続の助動詞
- ④ マ行四段活用動詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の連用形＋断定の助動詞
- ⑤ マ行四段活用動詞の連用形＋ラ行上二段活用動詞の連用形＋存続の助動詞

39

問3 傍線番号(3)・(6)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

40

41

(3) 露違はず見ゆる

- ① ほんの少しの間違いも見逃さない
- ② 露のようにはかなく見える
- ③ ごくわずかしか変わらないように見える
- ④ 露に濡れるのもいとわないうように見える
- ⑤ 少しも変わらないように見える

40

(6) ののしる

- ① うわさをする
- ② 大騒ぎする
- ③ 悪口を言う
- ④ 声高に非難する
- ⑤ 高い声を上げる

41

問4 傍線番号(5)「こはいかなる事ぞ」とあるが、「こ」の指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

42

- ① たくさんの人たちが、一心に自分に向かって礼拝していること
- ② みな一心に礼拝するばかりで自分に気がつかず、質問にも答えないこと
- ③ 自分が夢で見たのとまったく同じ情景を目の当たりにしたこと
- ④ 予定された時刻から大幅に遅れて、やっと僧がやってきたこと
- ⑤ そこにいる人々が入ってきた僧を見て一生懸命拝み始めたこと

問5 傍線番号(8)「万の人泣きあはれがる」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

43

- ① 観音だという男が、目の前で本来の観音の姿に変わったことに感動したから
- ② 観音になるはずの男が、法師になってしまったことに関心したから
- ③ 観音だと思われていた男が、実は観音ではなかったことを知って失望したから
- ④ 観音だという男が、法師姿になったことがいつそうありがたく、感動したから
- ⑤ 観音でもない男が、出家して観音を名乗ったことに驚きあきれたから

問6 傍線番号(9)「かれ」とあるが、「かれ」の指す人物として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① そのわたりなる人
- ② 年三十ばかりの男
- ③ 万の人
- ④ 僧
- ⑤ 見知りたる人

問7 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 観音は、夢に出てきた時とまったく同じかつこう恰好をして湯浴みに現れた
- ② 人々が薬湯で観音がくるのを待っていると、お告げの時間にやや遅れて男が現れた
- ③ 観音といわれた男は、人々が一心に自分を拝んでいるのを見て大いに感動した
- ④ 観音といわれた男は、湯浴みに来る途中の狩で馬から落ちて右腕を折った
- ⑤ 観音といわれた男が法師姿になって初めて、人々は男が語った夢の話信じた

問8 本文の出典である『宇治拾遺物語』と同時期に成立した同じジャンルの作品を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

46

- ① 今昔物語集
- ② 栄花物語
- ③ 竹取物語
- ④ 日本霊異記
- ⑤ 古今著聞集